

試験研究（事前）評価整理表

試験研究機関名 衛生研究所
所管課(室) 薬務課

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	研究期間		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	ライフステージや疾病に応じた保健予防対策の充実	感染症対策	つづが虫病の分子疫学的調査及び迅速診断法の検討	本病は、発生地域の把握による「予防」と適切な抗菌薬の投与のための「迅速診断」が重要である。本研究では「予防」と「迅速診断」に係る基礎的な調査・研究を行い、県民及び医療関係者への効果的な情報還元を図ることを目的とする。	1. つづが虫及びリケッチアの分布調査（汚染地域調査） 2. 健康者から採取した血清における抗体価調査 3. 既存のPCRによる遺伝子検出法の習得及びLAMP法による新規高感度遺伝子検出系の検討	22	24	A	福島県は全国の中でも発生件数が高く、ニーズとしては高い。また、リケッチア遺伝子による検査が確立されれば迅速な診断が行われ、県民が早期に適切な医療を受けることが可能となる。	最近5年間急増してきたので、もっと早く原因究明と対策を始めることが望まれたと思う。汚染地域の確定の重要性と、迅速診断と対応の重要性とのバランスを考えて、効果的な研究をおこなってほしい。
2	生活衛生等の確保	食品中の抗生物質モニタリング	はちみつ中のミロサマイシンの試験法の検討	はちみつ中のミロサマイシンの定量方法を確立し、食品安全対策事業（畜水産食品中の抗生物質等モニタリング検査）のはちみつ測定項目に追加し、県内流通品の実態調査を行い、もって県民の食の安全確保を図る。	当所に平成20年度末に導入されたLC/MS/MSを用い、はちみつ中のミロサマイシンの定量方法を検討し、添加回収試験等を行い、その妥当性を確認する。	22	23	A	ミロサマイシンの基準値が定められたことから、早急に検査方法を確立し、行政検査に反映させ、県民の食の安全安心を守る必要がある。	食品衛生法改正に連動したタイムリーな研究課題と言える。検査方法を自ら確定するのは大変なことだが、鋭意努力することが望まれる。国の通知が遅れている中で、優れた対応であると言える。
3	生活衛生等の確保	感染症対策	レジオネラ属菌迅速検査法の検討と汚染実態調査	レジオネラ属菌の検査技術を向上させるとともに、集団発生時に対応可能な迅速検査法を検討する。同時に県内の人工環境水のレジオネラ属菌の汚染実態を把握することで、レジオネラ症発生防止対策の一助とする。	レジオネラ属菌の検査技術の向上及び集団感染発生時に対応可能な迅速検査法を検討するとともに、県内の人工環境水を使用している施設のレジオネラ属菌調査を実施して汚染実態を把握する。	22	23	B	集団発生時にはすみやかな検査結果の判定が必要となる。浴槽水以外の人工環境水中の調査事例がほとんどないため実態把握が必要である。	レジオネラ属菌の集団発生対応を考慮した先進的かつ優先順位の高い研究と言える。届け出件数が増加していることが注目される。保健所のみ任せない姿勢は重要である。厚生労働科学研究との連携も期待される。

試験研究機関名 林業研究センター
所管課(室) 農業振興課研究開発室

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	研究期間		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	中山間地域の産業振興を支援するための総合的な技術開発	地域特産食用きのこの栽培技術の開発と優良品種選抜	中山間地域の振興に寄与するため、自然栽培用品種を選抜し、地域特産品となり得る食用きのこの栽培技術の開発を図るとともに、これまで開発した栽培施設を必要としない栽培技術に応用した栽培方法を開発する。	地域特産品目として期待される、一般には栽培されていない食用きのこ（キクラゲ、ホンシメジ等）の栽培技術を開発する。また、既存の栽培種についても野生菌株等の収集を行い、地域に適した自然栽培用品種の選抜を行う。	22	26	B	地域特産としての食用きのこの栽培技術、優良品種の開発は中山間地域の振興に寄与するものである。	地域特産作物の作出とその栽培技術の確立は、中山間地域の活性化に寄与するものと考え、開発した技術の普及のためには、さらに、産産化と販路拡大等、施策的支援も考えていく必要がある。研究は秀逸な内容と感じられた。ただ、中山間地域の方々が高齢化していることを踏まえると、実際に産産化として根付くのかについても考慮しながら、研究を進めていただきたい。
2	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	中山間地域の産業振興を支援するための総合的な技術開発	キリ健全苗生産技術の開発	本県の重要な地域特産品の一つである会津桐の健全苗生産技術を開発する。	従来の分根法に代わり、ポット育苗などによる実生法を検討し、キリの健全苗生産技術を開発する。	22	26	B	会津地域に限定される内容ではあるが、今後の資源を確保するためには健全苗生産技術の開発は必要と認められる。	
3	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	農林水産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発	会津産スギ材の特性把握と利活用技術の開発	これまで市場において低評価されてきた会津産スギ材の素材の選別基準と利用技術を開発し、県産材の需要拡大に資する。	変色・腐朽等のある素材、製材品それぞれの段階での判定方法、強度特性を検討してその利用技術等を開発する。	22	26	A	今後伐採されるスギ材の需要拡大と安定供給を図るため、積極的に取り組むべきである。	